

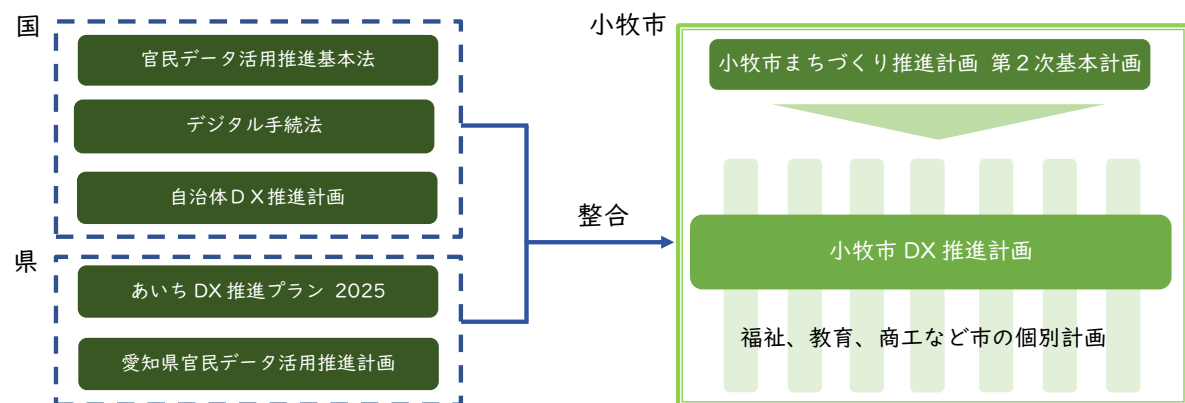
I DX推進計画について

■ 策定の趣旨

将来にわたり持続可能で魅力的なまちづくりを目指し、ICTやデータの活用に関する基本的な考え方や方向性を計画として示します。

■ 計画の位置付け

- ・小牧市まちづくり推進計画 第2次基本計画の推進を横断的に支援
- ・官民データ活用推進基本法が定める市町村官民データ活用推進計画
- ・総務省が策定した「自治体デジタル・トランスフォーメーション(DX)推進計画」の各種要請に対応



■ 計画期間及び推進体制

令和3(2021)年度から令和8(2026)年度までの6年間



※令和6年3月に計画名称を「デジタルイノベーション推進計画」から「DX推進計画」に変更しました。

市のCIO(最高情報統括責任者)である副市長を本部長とした「小牧市DX推進委員会」を中心に、戦略的にデジタル化を推進します。

■ 情報セキュリティの向上及び個人情報の適正な取扱いの確保

適切な情報システムの運用体制を確保し、個人情報の適正な利用や、安全管理の徹底を図ります。

II DXにより目指す未来

■ DX VISION

誰もがデジタル化の利便性を享受し、豊かさを実感できるまちを目指します。



× **DX**

まちづくり × **DX**
行政サービス × **DX**
行政経営 × **DX**

社会情勢の変化に対応し、「まちづくり」、「行政サービス」、「行政経営」の3つの分野においてDXを推進することで、誰もがデジタル化の恩恵や利便性を享受できる状態を創出し、市民が「豊かさ」を実感できるまちを目指します。

■ DX VISION実現に向けた指針

指針1 デジタルバイデフォルト

真に利便性の高いサービスを実現するため、これまでのサービスの在り方や手続方法を見直します。新たに実施していく取組については、費用対効果を勘案し、デジタルを基本かつ原則として実施していきます。

指針2 データの利活用推進

社会課題や地域の課題を解決するためには、ICTやビッグデータを活用して現状を分析し、問題を可視化することが重要です。データを活用することは、持続可能な市政運営を支えるための基盤となります。データを収集・作成・蓄積する段階から利活用しやすい形で保有します。

指針3 ユーザビリティの追求

デジタルデバイド(※)に配慮し、利用者の立場で、使いやすさ・分かりやすさを重視したサービス・業務を設計、提供します。サービス提供後も、随時見直しを行います。

※インターネットやパソコン等の情報通信技術を利用できる者と利用できない者との間に生じる格差。

DX VISIONの実現に向け、6つの基本施策を設定しました。

	基本施策
● まちづくり × DX	① デジタル化への基盤の整備 ② ICTを活用した便利で快適な都市の創造
● 行政サービス × DX	③ ICTを活用した協働・情報共有の促進 ④ ICTを活用した利便性の高い窓口サービス
● 行政経営 × DX	⑤ ICTを活用した業務効率化による生産性向上 ⑥ デジタル化に対応できるひとづくり